

福祉サービス第三者評価結果報告書（2021 年度）

2022 年 3 月 28 日

社会福祉法人京都市社会福祉協議会
市原野 館長 殿

〒150-0002

所在地 東京都渋谷区渋谷 2-12-15 日本薬学会ビル 7F
評価機関名 一般財団法人 児童健全育成推進財団
(東京都福祉サービス評価第三者評価機関/機構 12-215)
電話番号 03-3486-5141
代表者氏名 理事長 鈴木 一光



以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名	評価者氏名		所属
	①	渡部 博昭	児童健全育成推進財団 第三者評価室主たる評価者 東京都評価者番号 H1201036
	②	熊澤 桂子	児童健全育成推進財団 第三者評価室 所属評価者
福祉サービス種別	児童館		
評価対象施設名称	市原野児童館		
施設連絡先	所在地	〒601-1123 京都府京都市左京区静海市市原町 254-2	
	電話番号	075-705-6115	
施設代表者氏名	館長 堀田 幸子		
契約日	2021 年 1 月 20 日		
自己評価票回答期間	2021 年 5 月 28 日～2021 年 7 月 1 日		館長・事務局回答項目
職員調査票回答期間	2021 年 10 月 12 日～2021 年 10 月 26 日		職員回答項目
訪問調査日	2021 年 12 月 9 日		

京都市市原野児童館評価結果

I. リーダーシップと意思決定

1 事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている		
1 事業所が目指していること（理念、基本方針）を明確化・周知している		
1. 事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）を明示している		○
2. 事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている		○
3. 事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている		○
2 経営層（運営管理者含む）は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている		
1. 経営層は、自らの役割と責任を表明し、職員に伝えている		○
2. 経営層は、経営の改善、児童館活動の質の向上などに向けて取り組むべき方向性を提示し、指導力を発揮している		○
【講評】		
法人は基本構想と児童館担当部の事業計画を明示して、実現に向けた取り組みを行っています		
① 法人は「京都市の社協基本構想」を掲げ、住民主体の地域福祉活動の発展と地域共生社会の実現を唱っています。このことを法人のホームページ、広報誌、パンフレット、などの媒体により広く公表し、利用者への周知を図っています。児童館職員に対しては、その理解を深めるための研修を行い、目指す姿の実現のために自館の業務の中で何をやるのかについて具体例を挙げながら話し合う機会を持ちました。児童館事業部としての事業計画を定めています。ホームページ等で公表するほか、各児童館の事業計画立案の基礎になっています。		
② 経営層は、業務権限や責任所在に関する「専決規程」を定めて自らの役割と責任の所在を明示しています。		
③ 同じ行政区の法人所管児童館の館長によるグループ制を導入しています。各グループに部長を配置し、グループの統括、グループ館長会をスムーズに行う運用としています。このことにより、法人の意向や必要な事務連絡、各館の情報交換が円滑に行われるようになっています。		

Ⅱ. 経営における社会的責任

1 社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		
1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知している		
1. 福祉サービスに従事する者として、守るべき法・規範・倫理（個人の尊厳）などを明示している		○
2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理（個人の尊厳）などの理解が深まるように取り組んでいる		○
3. 事業所のコンプライアンスや社会的責任を明確にして、職員保護や法令遵守に対する取り組みをおこなっている		○
2 第三者による評価の結果公表、情報開示などにより、地域社会に対し、透明性の高い組織となっている		
1. 第三者による評価の結果公表、情報開示など外部の導入を図り、開かれた組織となるよう取り組んでいる		○
2. 透明性を高めるために、地域の人目にふれやすい方法（事業者便り・会報など）で地域社会に事業所に関する情報を開示している		○
2 地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		
1 事業所の機能や福祉の専門性を生かした取り組みがある		
1. 利用者と地域との交流を広げるための地域への働きかけを行っている		○
2. 事業所の機能や専門性は、利用者に支障のない範囲で地域の人に還元している（施設・備品等の開放、個別相談など）		○
3. 地域の人や関係機関を対象に、事業所の機能や専門性を生かした企画・啓発活動（研修会の開催、講師派遣など）を行っている		○
2 ボランティア受け入れに関する基本姿勢を明確にし、体制を確立している		
1. ボランティアの受け入れに対する基本姿勢を明示している		○
2. ボランティアの受け入れ体制を整備している（担当者の配置、手引き書の作成など）		○
3 地域の関係機関との連携を図っている		
1. 事業所として必要な関係機関との連携が、適切に行われている		○
2. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働して取り組めるような体制を整えている		○
【講評】		
地域の福祉を担う法人として、児童館も社会的責任を果たす事業に取り組んでいます		
<p>① 職員の心得やサービス姿勢を「信条」に明示しています。「職場倫理マニュアル」の策定、「職場倫理チェックシート」を作成し、各館が活用することで倫理意識の維持・向上に努めています。管理職対象のハラスメント研修、職員全体に「障害者差別解消法」研修を行う等、職員保護や法令遵守の推進を図っています。例えばハラスメント対応については、職員の職種に関わらず、採用時に法人の「ハラスメント防止に関する要綱」を明示して職員に周知しています。</p> <p>② 「事業報告書」「情報公開規程」「第三者評価受審結果」等必要な情報開示を行っています。また、所管児童館共通で実施する「利用者共通アンケート」の結果を「児童館だより」等に掲載し公表しています。</p> <p>③ 法人は地域公益活動を最重要事項の一つとしています。各児童館では、他施設との交流、地域の方々にも参画してもらう「児童館まつり」の開催、児童館運営協力会を組織し実施するなど、地域への働きかけを積極的に行う姿勢です。</p> <p>④ 各館におけるボランティアの積極的な受け入れも進めています。その際の「ボランティアの手引き」もひな形を示しています。倫理面、個人情報保護等については、準職員やボランティアにも職員同様に適用することを伝えています。</p> <p>⑤ 京都市地域子育て支援ステーション事業の基幹ステーションとして、地域の子育てに関わる関係機関や団体の中核として、子どもに関わる情報交換や会議、研修、子育て家庭に向けた事業を実施しています。</p>		

Ⅲ. 利用者意向や地域・事業環境の把握と活用

1 利用者意向や地域・事業環境に関する情報を収集・活用している

1 利用者一人ひとりの意向（意見・要望・苦情）を多様な方法で把握し、迅速に対応している（苦情解決制度を含む）		
1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている		○
2. 利用者が相談や意見を述べやすい環境を整備し、利用者等に周知している		○
3. 利用者一人ひとりの意見・要望・苦情に対して組織的に解決に取り組んでいる		○
2 利用者意向の集約・分析とサービス向上への活用に取り組んでいる		
1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向を把握することに取り組んでいる		○
2. 利用者の意向をサービス向上につなげることに取り組んでいる		○
3 地域・事業環境に関する情報を収集し、状況を把握・分析している		
1. 地域の福祉ニーズの収集（地域での聞き取り、地域懇談会など）に取り組んでいる		○
2. 福祉事業全体の動向（行政や業界などの動き）の収集に取り組んでいる		○

【講評】

苦情解決制度や利用者アンケートなどの方法でニーズや要望を把握し、サービス向上に繋げています

- ① 「苦情解決規則」を整備しています。これに基づいて第三者委員会を設置するとともに、児童館には苦情申出窓口を設置し、利用者の意見の受け止めに努めています。苦情解決制度の案内は館内に掲示して利用者への周知を図っています。日常的に職員が意見や要望を聞いたときは、施設長に報告して速やかな解決に努め、必要に応じてと法人と共有して対応を図ります。
- ② 毎年「利用者共通アンケート」を実施して、利用者の意向を児童館の事業計画や運営改善に活かしています。アンケートは法人本部で集約し、質問内容は定期的に刷新したり、表現の変更を行ったりしています。また、アンケート結果を児童館に掲示したり、児童館だよりに掲載したりして利用者や地域住民に公表し、透明性の確保とサービス内容の向上に努めています。
- ③ 放課後児童クラブでは、保護者懇談会や個人面談を実施して個別的な要望や意向を把握しています。また、日常の会話や連絡帳を通して児童館と家庭の共通認識が図られるように努めています。子どもの意見の尊重や子どもの主体的な活動を促す取組みとして、児童館ごとに子ども会議等を実施したり、意見箱を設置したりしています。子どもが意見を出し合って、活動の内容を決めたり、購入する物を決めたりしています。
- ④ 他団体が委託を受けている「中三学習会」や地域の実行委員会が開設している「子ども食堂」に施設提供や職員派遣を行い、地域への公益的役割を果たすことができています。

IV. 計画の策定と着実な実行

1 実践的な課題・計画策定に取り組んでいる		
1 取り組み期間に応じた課題・計画を策定している		
1. 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている	<input type="radio"/>	
2. 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている	<input type="radio"/>	
3. 単年度の計画は、担当者・スケジュールの設定などを行い、計画的に取り組んでいる	<input type="radio"/>	
2 多角的な視点から課題を把握し、計画を策定している		
1. 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われている	<input type="radio"/>	
2. 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しについて職員が理解している	<input type="radio"/>	
3. 事業計画は、サービスの現状（利用者意向、地域の福祉ニーズや事業環境など）を踏まえて策定している	<input type="radio"/>	
4. 事業計画は、利用者に周知され、理解を促している	<input type="radio"/>	
3 着実な計画の実行に取り組んでいる		
1. 計画推進の方法（体制、職員の役割や活動内容など）を明示している	<input type="radio"/>	
2. 計画推進にあたり、目指す目標と達成度合いを測る指標を明示している	<input type="radio"/>	
2 利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる		
1 利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる		
1. リスクマネジメント体制を構築し、事故、感染症、侵入、火災、自然災害などの事例の収集と要因分析と対応策の検討・実施が行われている	<input type="radio"/>	
2. 事故、感染症、侵入、火災、自然災害などの発生時でもサービス提供が継続できるよう、職員、利用者、関係機関などに具体的な活動内容が伝わっている	<input type="radio"/>	
3. 子どもに施設・遊具の適切な利用方法を伝え、安全に遊べるようにしている	<input type="radio"/>	
4. 子どものケガや病気の応急処置の方法について、研修や訓練に参加している	<input type="radio"/>	
【講評】		
社協基本構想を基礎にマニュアルや事業計画が策定され、計画的な運営が行われています		
<p>① 「京都市の社協基本構想」で今後5年間の児童館の中期計画を示しており、自治体の方針や社会状況に照らして時宜に応じた変更などを検討するようになっていきます。各児童館の単年度の事業計画もこの中期計画を基準にして策定しています。各児童館では、年度末に児童館事業、放課後児童クラブ事業別に年間活動報告を作成して課題を明確にするとともに、次年度の計画策定時に生かしています。</p> <p>② 所管各館で運用している日誌システムは、共有データとして全職員が閲覧できるようになっており、事業計画の実施状況を把握、共有できる仕組みです。また、事業評価や見直しは事業計画の策定とセットで全職員が関わって行います。職員が意見を出し合い、共通の認識の上で、内容の充実や新しい取組みの計画が行われます。</p> <p>③ 法人独自に「事故防止マニュアル」「緊急時の対応に関するマニュアル」「感染症予防対策のためのマニュアル」等、各種危機管理のマニュアルを整備しています。また、定期的な避難・消火訓練や「ヒヤリハット」の報告等、具体的な利用者の安全対策を講じています。併せて、各館の立地条件にあった「防災マニュアル」を作成するなど、安全な児童館運営のための取組みが計画的に行われています。</p> <p>④ 所管各館で利用児童の特性に応じて、遊具の使用法や遊ぶ際の決まりなどを工夫しながら示して、安全に遊ぶことができる環境づくりに努めています。同時に、職員は子どもの主体性を損なうことがないように、子どものやりたいことを吸い上げ、できるだけ実現できるようにすることを念頭に、子どもの支援を行っています。</p>		

V. 職員と組織の能力向上

1 事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成に取り組んでいる		
1 事業所にとって必要な人材構成にしている		
1. 事業所の人事制度に関する方針（期待する職員像、職員育成・評価の考え方）を明示している		<input type="radio"/>
2. 採用に対する明確な基準を設けている		<input type="radio"/>
2 職員の質の向上に取り組んでいる		
1. 職員一人ひとりの能力向上に関する希望を把握している		<input type="radio"/>
2. 事業所の人材育成計画と職員一人ひとりの意向に基づき、個人別の育成（研修）計画を策定している		<input type="radio"/>
3. 職員一人ひとりの個人別の育成（研修）計画に基づいて、必要な支援をしている		<input type="radio"/>
2 職員一人ひとりと組織力の発揮に取り組んでいる		
1 職員一人ひとりの主体的な判断・行動と組織としての学びに取り組んでいる		
1. 職員の判断で実施可能な範囲と、それを超えた場合の対応方法を明示している		<input type="radio"/>
2. 職員一人ひとりの研修成果を、レポートや発表等で共有化に取り組んでいる		<input type="radio"/>
2 職員のやる気向上に取り組んでいる		
1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価・報酬（賃金、昇進・昇格、賞賛など）が連動した人材マネジメントを行っている		<input type="radio"/>
2. 就業状況（勤務時間や休暇取得、疲労・ストレスなど）を把握し、改善に取り組んでいる		<input type="radio"/>
【講評】 採用・評価・研修受講の仕組みを整え、人材確保と育成を進めています		
① 職員採用は、透明性確保のために公募による採用試験を行っています。試験は筆記、小論文、実地試験などを行っており、基準が明確な評定表に基づいて可否判断がされる仕組みを確立しています。 ② 各館で定期的に館長による職員面談を行い、職員一人ひとりから職務への希望、課題、資質向上への意向などを聞き取り、人員配置や人材育成計画等の参考としています。 ③ 法人独自の人事考課制度とOJTの導入により、各館職員の資質・専門性の評価の明確化と効果性の向上を図っています。法人では考課者の資質が重要であることを館長に伝え、館長はその責任を果たすべく、職員ヒアリングに臨んでいます。また、この人事考課は児童館長への昇格に考慮されます。 ④ すべての職員に「報・連・相」を徹底するよう心がけています。 ⑤ 各館では職員一人ひとりの研修受講状況を管理するとともに、人材育成の課題や目標を立てています。これに加えて、職員自身の意向も加味し各館の資質向上を図っています。研修終了後はレポートの提出が義務付けられており、伝達研修により研修内容の全体化と定着化を進めています。また、新たな採用職員、1年目の職員や初異動の職員は、実務の中で学びを得てもらうため、OJT制度を導入してサポートしています。		

V. 職員と組織の能力向上

1 事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成に取り組んでいる		
1 事業所にとって必要な人材構成にしている		
1. 事業所の人事制度に関する方針（期待する職員像、職員育成・評価の考え方）を明示している		○
2. 採用に対する明確な基準を設けている		○
2 職員の質の向上に取り組んでいる		
1. 職員一人ひとりの能力向上に関する希望を把握している		○
2. 事業所の人材育成計画と職員一人ひとりの意向に基づき、個人別の育成（研修）計画を策定している		○
3. 職員一人ひとりの個人別の育成（研修）計画に基づいて、必要な支援をしている		○
2 職員一人ひとりと組織力の発揮に取り組んでいる		
1 職員一人ひとりの主体的な判断・行動と組織としての学びに取り組んでいる		
1. 職員の判断で実施可能な範囲と、それを超えた場合の対応方法を明示している		○
2. 職員一人ひとりの研修成果を、レポートや発表等で共有化に取り組んでいる		○
2 職員のやる気向上に取り組んでいる		
1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価・報酬（賃金、昇進・昇格、賞賛など）が連動した人材マネジメントを行っている		○
2. 就業状況（勤務時間や休暇取得、疲労・ストレスなど）を把握し、改善に取り組んでいる		○
【講評】 採用・評価・研修受講の仕組みを整え、人材確保と育成を進めています		
① 職員採用は、透明性確保のために公募による採用試験を行っています。試験は筆記、小論文、実地試験などを行っており、基準が明確な評定表に基づいて可否判断がされる仕組みを確立しています。 ② 各館で定期的に館長による職員面談を行い、職員一人ひとりから職務への希望、課題、資質向上への意向などを聞き取り、人員配置や人材育成計画等の参考としています。 ③ 法人独自の人事考課制度とOJTの導入により、各館職員の資質・専門性の評価の明確化と効果性の向上を図っています。法人では考課者の資質が重要であることを館長に伝え、館長はその責任を果たすべく、職員ヒアリングに臨んでいます。また、この人事考課は児童館長への昇格に考慮されます。 ④ すべての職員に「報・連・相」を徹底するよう心がけています。 ⑤ 各館では職員一人ひとりの研修受講状況を管理するとともに、人材育成の課題や目標を立てています。これに加えて、職員自身の意向も加味し各館の資質向上を図っています。研修終了後はレポートの提出が義務付けられており、伝達研修により研修内容の全体化と定着化を進めています。また、新たな採用職員、1年目の職員や初異動の職員は、実務の中で学びを得てもらうため、OJT制度を導入してサポートしています。		

VI. サービス提供のプロセス

1 サービス情報の提供

1 利用者や地域住民に対してサービスの情報を提供している

1. 利用者や地域住民が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	○
2. 利用者や地域住民の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	○
3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	○
4. 事業所の利用促進につながるように創意ある広報活動がおこなわれている	○

【講評】

広報誌は、わかりやすく、読みたくなる紙面づくりを心がけています。

- ① 「じどうかんだより」は児童館の学区と、児童館のない学区の小学校2校に全校配布をしています。学区内にはイベント情報を全戸配布、回覧板の利用も行っています。利用対象ごとのたよりも作成し、関係機関への配布も行っています。「じどうかんだより」は自治連合会のホームページにも掲載していただいています。
- ② 「じどうかんだより」の紙面は、小学生でも読みやすい工夫と、行事報告のみでなく利用者の声を載せて情景が浮かび、楽しめる工夫をしています。また自由来館児童が参加できる行事のチラシには申し込み書と合わせて、保護者の同意書をつけています。HP では行事や活動の情報発信だけでなく、利用者アンケートの結果報告、利用者票のダウンロード、たよりのバックナンバーなどを公開し、利便性を高めるとともに、初めての人でもわかりやすい活動内容と利用方法の提示が来ています。
- ③ 中高生世代が受け取りやすいSNSを利用して情報の発信を行っています。また放課後児童クラブのOBOGに、葉書を出し、対象となる事業のお知らせをしています。葉書の反応はよく、友人を連れて児童館に気軽に遊びに来てくれています。

2 サービスの実施

1 遊びの環境整備を行っている

1. 遊ぶ際を守るべき事項（きまり）が、利用者に理解できるように決められている	○
2. 乳幼児から中高生までの子どもすべてが日常的に気軽に利用できる環境がある	○
3. 子どもが自ら遊びを作り出したり、遊びを選択したりできるようにしている	○
4. 幅広い年齢の児童が交流できる場が日常的に設定されている	○

【講評】

子どもの声を活かして、安全で利用しやすい遊び環境を提供しています

- ① 「安全」に配慮した遊びのルールや、初めての人にもわかりやすい利用方法の提示をしています。子どもには「なぜそのルールがあるのか」「みんなが気持ちよく利用するにはどうしたらいいか」など、理由を伝えたり、考える機会を持ったりしています。子どもたちの間でルールに疑問や問題があるときは、3年生会議や帰りの会で子どもたちと話し合うことがあります。
- ② 様々な年代の利用がありますが、子どもたちの遊びが制限されることがないように、職員が声をかけて支援や調整をしながら、相互に交流が図れるよう努めています。児童館の階下は自治会館になっており、優先的に利用をさせてもらえる関係があり、乳幼児親子から中高生ができる限り満足ができるよう活動しています。また近くの企業が管理している公園も使用できるなど、地域団体等との良好な関係から子どもの遊び環境も広がっています。
- ③ 乳幼児と小学生、小学生と中高生が自然に交流できるような遊びの時間と場所を設定して事業を行っています。第2土曜日に小学生全学年が参加出来る「わくわくお楽しみ企画」や季節行事、館外活動等では異年齢集団で遊び、自由来館児童と放課後児童クラブ登録児童と一緒に遊べる機会になっています。

2 子どもの発達過程に応じた支援を行っている

1. 職員が、子どもの発達の一般的な特徴や発達過程について、研修などで学んでいる	○
2. 子ども一人ひとりの発達特性を把握し、発達の個人差を踏まえて支援を行っている	○
3. 子どもへの対応について、個々の事例に関する検討が職員間で行われている	○

	<p>【講評】 職員は子どもの発達の個人差を理解し、子ども、保護者にあわせた個別の対応を行っています。</p> <p>① 職員は京都市の研修等で子どもの発達過程について学ぶ機会があります。児童館ガイドラインの子育て家庭の支援の記述などから、保護者の意見を活かした企画として、保護者向け講演会「子どもの発達にあわせたおもちゃの選び方」を地域のおもちゃ店を講師に招いて実施しました。家庭における子どもの発達過程に併せた支援の一環としています。</p> <p>② 毎日の昼会議で、子どもたちの様子について情報共有を行っています。日誌や個人の個別ファイルに子どもの活動の様子を入力し、日誌は法人共通でシステム化されています。システムで子どもの名前を検索すると個人の記録一覧が表記されます。職員は子どもの発達に個人差があることを認識し、一人ひとりの成長・発達を職員間で検討しながら支援しています。</p> <p>③ 子どもの発達を視野に入れた支援として、年度当初の年間計画で学年別のねらいを示し、特に小学3年生と高学年は役割を持たせて、夏休みの行事に繋げています。また、乳幼児の保護者に対しても、子ども一人ひとりに個人差や特性があることを伝え、保護者が子育てに前向きになれるような対応を心がけて支えています。</p>														
	<p>3 乳幼児と保護者への対応を行っている</p> <table border="1"> <tr><td>1. 乳幼児と保護者が、自由に交流できる場を提供している</td><td>○</td></tr> <tr><td>2. 乳幼児と保護者の交流の促進に配慮している</td><td>○</td></tr> <tr><td>3. 子どもの発達上の課題について、気軽に相談できるように配慮している</td><td>○</td></tr> <tr><td>4. 乳幼児活動は、参加者のニーズに基づいたものになっている</td><td>○</td></tr> <tr><td>5. 保護者が主体的に運営できるように活動を支援している</td><td>○</td></tr> <tr><td>6. 児童虐待の予防に向けて、保護者の子育てへの不安や課題に対して継続的に支援し、必要に応じて相談機関等につないでいる</td><td>○</td></tr> <tr><td>7. 乳幼児と中・高校生世代等とのふれあい体験を実施している</td><td>○</td></tr> </table> <p>【講評】 コロナ禍でも地域の親子の安心できる居場所として活動を行っています。</p> <p>① 乳幼児保護者の様々なニーズに応えることができるよう、乳幼児クラブやひろば事業を展開しています。コロナ禍で行き場のない親子が気兼ねなく利用できるように、二部制で活動したり、部屋を分けて同時に活動が出来るようにしたりなどの工夫をして安心安全の確保に努めています。乳幼児親子がいつでもゆっくり過ごせ、児童館が安心出来る居場所になることを基本としています。集団活動に入れないことを気にする保護者がいた場合は、個別の対応を丁寧に行うこととしています。</p> <p>② 子どもが幼稚園に入り、児童館に来られなくなることが悲しいという親の声から「プチスタ会議」という母親クラブの立ち上げをサポートし、保護者が児童館でのボランティア活動をしています。毎年3月に年間計画をたて、乳幼児クラブなどの活動を手伝っています。</p> <p>③ 令和3年度より「中高生と赤ちゃんとの交流活動」である「カプチーノ」を開始しました。葉書による呼びかけで参加した学童クラブOBOGとその友人の14名で土曜日に準備を進めていました。</p>	1. 乳幼児と保護者が、自由に交流できる場を提供している	○	2. 乳幼児と保護者の交流の促進に配慮している	○	3. 子どもの発達上の課題について、気軽に相談できるように配慮している	○	4. 乳幼児活動は、参加者のニーズに基づいたものになっている	○	5. 保護者が主体的に運営できるように活動を支援している	○	6. 児童虐待の予防に向けて、保護者の子育てへの不安や課題に対して継続的に支援し、必要に応じて相談機関等につないでいる	○	7. 乳幼児と中・高校生世代等とのふれあい体験を実施している	○
1. 乳幼児と保護者が、自由に交流できる場を提供している	○														
2. 乳幼児と保護者の交流の促進に配慮している	○														
3. 子どもの発達上の課題について、気軽に相談できるように配慮している	○														
4. 乳幼児活動は、参加者のニーズに基づいたものになっている	○														
5. 保護者が主体的に運営できるように活動を支援している	○														
6. 児童虐待の予防に向けて、保護者の子育てへの不安や課題に対して継続的に支援し、必要に応じて相談機関等につないでいる	○														
7. 乳幼児と中・高校生世代等とのふれあい体験を実施している	○														
	<p>4 小学生への対応を行っている（核となる児童館活動）</p> <table border="1"> <tr><td>1. 職員が個別・集団援助技術を念頭において、個人や集団の成長に向けて働きかけている</td><td>○</td></tr> <tr><td>2. 子どもが自ら作り出したり遊びを選択できるように環境を整えている</td><td>○</td></tr> <tr><td>3. 子どもが自発的・創造的に活動できるよう、対応や働きかけについて職員間で確認しあっている</td><td>○</td></tr> <tr><td>4. 行事やクラブ活動が、日常活動とのバランスや子どもの自主性・社会性を育てることを意識して企画されている</td><td>○</td></tr> </table>	1. 職員が個別・集団援助技術を念頭において、個人や集団の成長に向けて働きかけている	○	2. 子どもが自ら作り出したり遊びを選択できるように環境を整えている	○	3. 子どもが自発的・創造的に活動できるよう、対応や働きかけについて職員間で確認しあっている	○	4. 行事やクラブ活動が、日常活動とのバランスや子どもの自主性・社会性を育てることを意識して企画されている	○						
1. 職員が個別・集団援助技術を念頭において、個人や集団の成長に向けて働きかけている	○														
2. 子どもが自ら作り出したり遊びを選択できるように環境を整えている	○														
3. 子どもが自発的・創造的に活動できるよう、対応や働きかけについて職員間で確認しあっている	○														
4. 行事やクラブ活動が、日常活動とのバランスや子どもの自主性・社会性を育てることを意識して企画されている	○														

	<p>【講評】 子どもたちが意見を出しあい、創造しながら遊びを楽しむ機会が増えています。</p> <p>① 子ども支援の方向性を示し具体的な活動として行うため、年間計画を立てる際には、各月の活動のねらい、到達したい姿、子どもの役割の担い方や個別の対応などについて職員間で話し合い、共通の理解をもって進めています。</p> <p>② 日常の遊びでも、子どもたちがやりたいことができる環境を大切にしています。行事活動では子どもたちが意見を出しあい、他者の意見を聞いて折り合いをつけていくことを経験しています。主体的な活動の体験を積み重ねていく過程で、それを楽しんでいる様子が見られるようになっています。</p> <p>③ 令和2年度から毎月1回「みんなあそび（集団遊び）」を職員が企画しました。職員の関わりで、今までにない遊びを提供することで、子どもたちが積極的に遊び、集団の中で上級生が下級生に関わるきっかけとなりました。また、その後個別に自分たちで遊ぶ輪が広がることに繋がりました。</p>										
5	<p>中学生・高校生世代への対応を行っている</p> <table border="1"> <tr> <td>1. 中・高校生世代も利用できるようになっている</td><td>○</td></tr> <tr> <td>2. 中・高校生世代の文化活動やスポーツ活動に必要なスペースや備品がある</td><td>○</td></tr> <tr> <td>3. 中・高校生世代が自ら企画する活動がある</td><td>○</td></tr> <tr> <td>4. 思春期の発達特性について、職員が理解するための取り組みが行われている</td><td>○</td></tr> </table> <p>【講評】 中高生世代が来館しやすい環境づくりをおこなって迎え入れています。</p> <p>① 毎日5時半以降は中高生世代が優先的に利用できるように設定して利用を促しています。中学校区が町の中心部から遠い環境のため、待ち合わせ場所として活用されています。バスケットや卓球、クッキングができるように備品を整えているので部活後に時間があると来館しています。平日の利用は微増です。</p> <p>② 中高生世代からの「利用時間が短い」との声を受け、毎月1回午後6時以降活動する「中高生よっといDAY」を実施するようになりました。彼ら自身がやりたいことを話あって活動を行っています。</p> <p>③ コロナ以前は、年3回「食べる」プログラムを企画してお茶やお菓子を食べながら集まっていました。食べ物があるとおしゃべりも盛り上がり、職員に気軽に本音も話せる機会となっています。</p> <p>④ 感染症の影響もあり利用者数が微増の傾向ではありますが、学校に行きにくい子や、何となく話をしたい子などの大切な居場所になっています。</p>	1. 中・高校生世代も利用できるようになっている	○	2. 中・高校生世代の文化活動やスポーツ活動に必要なスペースや備品がある	○	3. 中・高校生世代が自ら企画する活動がある	○	4. 思春期の発達特性について、職員が理解するための取り組みが行われている	○		
1. 中・高校生世代も利用できるようになっている	○										
2. 中・高校生世代の文化活動やスポーツ活動に必要なスペースや備品がある	○										
3. 中・高校生世代が自ら企画する活動がある	○										
4. 思春期の発達特性について、職員が理解するための取り組みが行われている	○										
6	<p>子どもの権利を尊重した支援を行っている</p> <table border="1"> <tr> <td>1. 子どもの権利擁護について、規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている</td><td>○</td></tr> <tr> <td>2. 子ども自身が子どもの権利を知る機会が設けられている</td><td>○</td></tr> <tr> <td>3. 子どもが困ったときや悩んだときに、職員に相談できるようになっている</td><td>○</td></tr> <tr> <td>4. 子どもの年齢や発達の程度に応じて子どもの意見や気持ちを尊重している</td><td>○</td></tr> <tr> <td>5. 子どもの意見が運営や活動に反映されている</td><td>○</td></tr> </table> <p>【講評】 子どもに聞き、共に考え、活動しやすい場を子どもと一緒につくっています。</p> <p>① 子どもの権利擁護や倫理規程について職員が理解を深める観点から、いつでも閲覧できるように本を置いたり、規程のファイルを整備したりして自由に見ることができるようになっています。</p> <p>② 子どもたちが意見を述べ、その意見が活かされて行事や活動が行われる経験を支援することから、「こどもまつり」「夏まつり」「クリスマス」などは実行委員会形式として実施しています。実行委員には自由来館児童も含めて希望を募って活動しています。</p> <p>③ 子どもの支援にあたっては「どのような対応や声掛けが子どもに影響を与えるか」を都度、職員同士で確認し合っています。夏休みは子どもの利用も多く、様々な取組みが行われるため、夏休み終了後には、それまでの総括を行い、後半の子ども支援に活かしています。具体的に子どもへの対応による変化や、変化の見える化について成果と課題を挙げるなどに取り組んでいます。行事ごとのタイミングでも総括をしています。</p> <p>③ 館や遊びのルールについて希望や意見があるときは、子どもたち自身が声をあげて共に話し合い、改善したり、我慢したりするなど、みんなで考えて相互に交渉することができる体験につなげています。</p>	1. 子どもの権利擁護について、規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている	○	2. 子ども自身が子どもの権利を知る機会が設けられている	○	3. 子どもが困ったときや悩んだときに、職員に相談できるようになっている	○	4. 子どもの年齢や発達の程度に応じて子どもの意見や気持ちを尊重している	○	5. 子どもの意見が運営や活動に反映されている	○
1. 子どもの権利擁護について、規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている	○										
2. 子ども自身が子どもの権利を知る機会が設けられている	○										
3. 子どもが困ったときや悩んだときに、職員に相談できるようになっている	○										
4. 子どもの年齢や発達の程度に応じて子どもの意見や気持ちを尊重している	○										
5. 子どもの意見が運営や活動に反映されている	○										

7 配慮を要する子ども・家庭への支援を行っている	
1. 保護者からの相談に日常的に対応できる体制がある	○
2. 障害の有無に関わらず子ども同士がお互いに協力できるような活動内容や環境に配慮している	○
3. 保護者の不適切な養育や、児童虐待の疑いのある子どもの情報を得たときは、組織として関係機関に連絡し、連携して対応を図っている	○
4. 子どもの活動の様子から必要があると判断した場合には、家庭と連絡を取るようになっていく	○
<p>【講評】 保護者、職員だけでなく、子ども自身も自分のことを考える工夫があります。</p> <p>① 保護者とは、お迎え時や電話などで子どもの様子や変化を伝えあうことで信頼関係を築いています。日ごろの会話の中でも話しやすい雰囲気をつ心がけ、心配事や相談が気軽にいつでも受けられるようにしています。</p> <p>② 困難な事例があるときは、児童相談所の担当医に相談したり、京都市児童館学童連盟の巡回指導の先生とケース会議を行ったりできる連携があります。また、職員間でもその都度、子どもの様子を会議等で情報共有し、共通理解をのもつて支援しています。</p> <p>③ 元々は配慮を要する児童の支援策として作成した「がんばりカード」ですが、子ども自身が成長や役割を認識することができるため、全員の子どもが1日のふりかえりとして取り組んでいます。自分の行動について各自で考えることをみんなでやり、頑張ったことを確認して記録をすることで、一人ひとりの成長を見守る一助としています。</p>	
8 地域の子どもの育成環境づくりを行っている	
1. 住民による子育て支援活動や健全育成活動を促進している	○
2. 地域社会で子どもが安全に過ごせるような取り組みをしている	○
3. 児童館運営協議会等を設け、地域住民と共に育成環境づくりを検討する機会がある	○
4. 児童館を利用する子どもが地域住民と直接交流できる機会を設けている	○
5. 児童館の活動と学校の行事等について学校と情報交換を行っている	○
6. 児童館や学校での子どもの様子等について学校と情報交換を行っている	○
7. 児童館を出て、地域の児童遊園や公園、子どもが利用できる他の施設等で事業を実施することがある	○
8. 地域住民やNPO、関係機関等と連携して活動している	○
<p>【講評】 地域・保護者の協働により、子どもの活動が豊かに、温かく見守られています。</p> <p>① 児童館運営協力委員会があり、地域の交通安全会、少年補導委員会や、小学校、保育園やPTA、民生委員等、他機関にメンバーになっていただいて連携し、地域での子どもの安心・安全な場づくりを行っています。地元の消防署・警察署の協力で避難訓練等も実施しています。</p> <p>② 「市原野子育て支援ネットワーク会議」の事務局を児童館が行い、諸団体相互の情報交換だけでなく、講師を招聘しての学習会、虐待防止のワークショップ、災害時の子育て支援など理解に努めています。また地域での子育て課題を共有し、それぞれの立場でできることを考えています。</p> <p>③ 児童館の活動に地域住民がすすんで参加し、クラブの講師や、図書整理など行っています。そのことで子どもたちの活動が豊かになり、住民に温かく見守られる児童館運営となっています。「いつでもいけるだれかにあえる みんなとつながる じどうかん」を標榜し、それを体現できるように取り組んでいます。</p>	
9 子どもを含めたボランティアの育成と活動支援を行っている	
1. 子どもの活動にお手伝いやボランティア活動を取り入れ、健全育成活動の一環として実施している	○
2. 乳幼児の保護者の主体的な活動を支援しつつ、ボランティアとして育成している	○
3. 地域住民を受け入れ、ボランティアとして育成している	○

	<p>【講評】 地域住民の方が、なにげなく、日常的に活動をサポートしてくれます。</p> <p>① 子どもたちの日常活動の中で、おやつ当番、自治会館などの掃除、草むしりなど、身近なお手伝いやお仕事を子どもたちに「一緒にいこう」と声をかけ、職員とともに行っています。今後は地域清掃なども声掛けをして、地域との関りも持ちたいと考えています。</p> <p>② 乳幼児クラブを終えた母親たちが児童館にお世話になった恩返しをしたいとのことから「プチスタ会議（母親クラブ）」結成されています。児童館の大型行事活動等の準備のサポートや、出し物を準備・参加したりなどの活動が行われています。</p> <p>③ 地域住民の方から、日常の取り組みとして図書整理を行い、自主的に手作りの本紹介をする表示を作成するといった自然な形でのボランティア活動につながっています。囲碁将棋クラブなどの得意分野で子どもたちをサポートしてくださる方々に、いつも見守られています。</p>
--	---

3 放課後児童クラブの運営【放課後児童クラブ併設の場合のみ該当】									
1	放課後児童クラブを児童館の持つ機能を生かして運営している <table border="1" data-bbox="225 790 1350 994"> <tr> <td>1. 放課後児童クラブは市町村の基準条例（最低基準）に基づいて行われている</td><td>○</td></tr> <tr> <td>2. 放課後児童クラブに在籍する子どもと児童館に来館する子どもとが直接交流できるような活動を工夫している</td><td>○</td></tr> <tr> <td>3. 放課後児童クラブに在籍する子どもと地域の子どもや住民とが直接交流できる機会を設けている</td><td>○</td></tr> </table>	1. 放課後児童クラブは市町村の基準条例（最低基準）に基づいて行われている	○	2. 放課後児童クラブに在籍する子どもと児童館に来館する子どもとが直接交流できるような活動を工夫している	○	3. 放課後児童クラブに在籍する子どもと地域の子どもや住民とが直接交流できる機会を設けている	○		
1. 放課後児童クラブは市町村の基準条例（最低基準）に基づいて行われている	○								
2. 放課後児童クラブに在籍する子どもと児童館に来館する子どもとが直接交流できるような活動を工夫している	○								
3. 放課後児童クラブに在籍する子どもと地域の子どもや住民とが直接交流できる機会を設けている	○								
2	サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている <table border="1" data-bbox="225 1037 1350 1272"> <tr> <td>1. 放課後児童クラブ利用の開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している</td><td>○</td></tr> <tr> <td>2. 放課後児童クラブの内容について、保護者の同意を得るようにしている</td><td>○</td></tr> <tr> <td>3. 放課後児童クラブに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している</td><td>○</td></tr> <tr> <td>4. 放課後児童クラブの利用が困難な場合には、理由を説明したうえで、他の相談先紹介など支援の必要に応じた対応をしている</td><td>○</td></tr> </table>	1. 放課後児童クラブ利用の開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している	○	2. 放課後児童クラブの内容について、保護者の同意を得るようにしている	○	3. 放課後児童クラブに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	○	4. 放課後児童クラブの利用が困難な場合には、理由を説明したうえで、他の相談先紹介など支援の必要に応じた対応をしている	○
1. 放課後児童クラブ利用の開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している	○								
2. 放課後児童クラブの内容について、保護者の同意を得るようにしている	○								
3. 放課後児童クラブに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	○								
4. 放課後児童クラブの利用が困難な場合には、理由を説明したうえで、他の相談先紹介など支援の必要に応じた対応をしている	○								
3	サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている <table border="1" data-bbox="225 1314 1350 1547"> <tr> <td>1. 放課後児童クラブ利用開始時に、子どもの支援に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している</td><td>○</td></tr> <tr> <td>2. 放課後児童クラブ利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように支援を行っている</td><td>○</td></tr> <tr> <td>3. 放課後児童クラブ利用の終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている</td><td>○</td></tr> </table>	1. 放課後児童クラブ利用開始時に、子どもの支援に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○	2. 放課後児童クラブ利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように支援を行っている	○	3. 放課後児童クラブ利用の終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている	○		
1. 放課後児童クラブ利用開始時に、子どもの支援に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○								
2. 放課後児童クラブ利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように支援を行っている	○								
3. 放課後児童クラブ利用の終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている	○								
<p>【講評】 放課後児童クラブ利用保護者も子どもも安心して楽しく利用できるように、配慮をしています。</p> <p>① 放課後児童クラブ登録児童は、児童館で放課後児童クラブを運営している特長を生かして、「みんなあそび」「夏まつり」など多様な交流や体験の機会を持っています。児童館の行事や活動を通して自由来館児童や地域の方々と一緒に活動し交流しています。また、日ごろの遊びも自由来館児童と分け隔てなく自然に遊びあっています。</p> <p>② 登録時の入会説明会では、放課後児童クラブの運営方針や年間計画、日常の生活や取組み、基本的なルールなどについて説明し、放課後児童クラブの必要事項を把握してもらい安心して利用ができるように心がけています。この際、個別の質問や要望、子どものアレルギー等の特性について聞き取って質問に対応するとともに、その内容は児童台帳や個別ファイルに記録して職員間で共有して子どもと家庭の支援に活かしています。また、個人情報等の取扱いや守秘義務についても説明をして、納得の上で、同意を得ています。</p> <p>③ 新入会の児童は、年度当初は職員が学校に迎えに行くとともに、保護者の送迎も依頼しています。保護者には送迎の際に、児童クラブでの様子を伝えたり、家庭での様子を聞かせていただいたりすることで、子どもの1日の生活を連携して支援する体制をつくり、同時に児童館と保護者との信頼関係を築いています。</p>									

4 特に配慮を要する子ども・家庭の個別状況に応じた対応と記録

1 特に配慮を要する子ども・家庭の情報収集、分析を行い、課題を理解した上で対応を図っている

1. 配慮を要する子どもや保護者の心身状況や生活状況、ニーズ等を把握し記録している	○
2. 配慮を要する子ども・家庭の支援について、関係機関と情報を共有し連携して対応している	○
3. 配慮を要する子ども・家庭の支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	○
4. 配慮を要する子ども・家庭の記録は、担当する職員すべてが共有し、活用している	○

【講評】

個別の状況やニーズの聞き取り、ケース検討、関係機関との連携などきめ細やかな対応をしています

- ① 配慮を要する児童・家庭の支援は主に放課後児童クラブで行うことが多くなっています。入会説明会時に放課後児童クラブの統合育成の方針・基本的な考え方などについて説明を行うとともに、個別に子どもの現在の状況やニーズを聞き取り、児童台帳への書き込みや児童の状況報告書の作成などの記録を行っています。この情報を職員間で共有して個別の支援の充実に繋げています。
- ② 職員は統合育成や配慮を要する児童・家庭の支援に関する研修会に積極的に参加し、周辺知識の理解と習得に努めています。また支援の実務として京都市児童館学童連盟の統合育成に関わる先生からケース検討と相談の機会を持っており、実際の実例による学びを得るとともに支援に役立てることができています。
- ③ 子どもの支援は出身保育所、小学校、家庭、児童館が連携してそれぞれの場での子どもの様子などについて情報を共有したり、必要に応じて協議をしたりするなど、子どもの生活の連続性に配慮して行っています。

5 プライバシーの保護等個人の尊厳、権利の尊重

1 子どものプライバシー保護を徹底している

1. 子どもに関する情報（事項）を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている	○
2. 子どもの羞恥心に配慮した支援を行っている	○

2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している

1. 日常活動の中で子ども一人ひとりを尊重している	○
2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した支援を行っている	○
3. 子どもの気持ちを傷つけるような職員の言動、放任、虐待、無視等が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に予防・再発防止対策を徹底している	○

【講評】

子どもと家庭の尊厳や個人情報を守る倫理マニュアルに従った支援を展開しています

- ① 子どもに関する個別の情報や写真などの取扱いについては、放課後児童クラブの入会説明会の際に説明していますが、具体的に児童館だよりやホームページなどでの使用が生じる際には、あらためて確認し同意を得ています。例えば行事の場合は児童館だよりに参加申込書をつけ、その申込書に同意確認欄を設けて予め把握して申し込みを受け付けています。
- ② 子どもの尊厳に配慮した支援と環境づくりに最大限の配慮を行っています。着替えの際は男女別の部屋を設け、かつアコーディオンカーテンで仕切っています。排泄の失敗などの際はトイレで鍵をかけて行う、事務室で他児の目に触れないようにして行うなど、子どもの羞恥心とプライバシーの保護を徹底しています。
- ③ 職員は臨時採用職員も含め、法人が策定した倫理マニュアルに従って行動しています。また、倫理チェックシートによる自己確認、職場内研修で事例検討を行っています。子どもに対して気になる言動があった際は、すぐに職員間で指摘をしあうことができる職員関係ができています。

6 事業所業務の標準化

1	手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている	
	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供している児童館活動の標準的な実施方法を明確にして活動を提供している	○
	2. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○
	3. 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している	○
2	サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている	
	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定められている	○
	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	○
	3. 職員一人ひとりが工夫・改善したサービス事例などをもとに、基本事項や手順等の改善に取り組んでいる	○
3	さまざまな取り組みにより、業務の一定水準を確保している	
	1. 打ち合わせや会議等の機会を通じて、サービスの基本事項や手順等が職員全体に行き渡るようにしている	○
	2. 職員が一定レベルの知識や技術を学べるような機会を提供している	○
	3. 職員一人ひとりのサービス提供の方法について、指導者が助言・指導している	○
	4. 職員は、わからないことが起きた際に、指導者や先輩等に相談し、助言を受けている	○
【講評】 法人が全館共通のマニュアルを策定し、業務の標準化を図っています。		
① 手引き書等は、職員全員がいつでも閲覧できるように、書棚に配架しています。またマニュアル等は可能なものは全員に配布しています。連携している小学校の先生の写真を表示し、学校とのよりよい関係づくりに役立てています。		
② 必要に応じて、職員研修への派遣を行い、受講後には報告を回覧して伝達講習としています。また、職員会議と毎日昼会議を行い、情報の共有をします。常日頃から職員間のコミュニケーションを大切に報告・連絡・相談を行い、自然に助言しあえるように意識づけています。		
③ 年2回に館長が各職員とヒアリングを行い、課題を共有、丁寧な助言・指導を行います。また、令和2年度より法人からOJT制度が導入されて、マニュアルが作成され、研修を行った上で進められています。		

VII. 情報の保護・共有

1 情報の保護・共有に取り組んでいる

1	事業所が蓄積している経営に関する情報の保護・共有に取り組んでいる	
	1. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定している	○
	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・保管している	○
2	個人情報、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえて保護・共有している	
	1. 事業所で扱っている個人情報の利用目的を明示している	○
	2. 個人情報の保護について職員（実習生やボランティアを含む）が理解し行動できるための取り組みを行っている	○

【講評】 情報の保管・管理は端末にアクセス権を設定するなど徹底して行っています		
① 個人情報が表示されている書類は、鍵のかかる場所に保管し、必要なときは適時、職員が確認をすることになっています。また、日誌類の記録はデータ化が行われ、子どもの情報をより系統的に記録し、職員も情報の検索が容易になっています。データは厳重に保管管理が図られています。		

- | |
|---|
| ② 個人情報の取り扱いについては、保護者に説明を行い、理解を深めています。また同意書を求めるなど、書面でも確認した上で保管して、その取り扱いを徹底しています。 |
| ③ 実習生やボランティアには、活動に入る前に個人情報の取扱いや秘密保持について職員から説明して個人情報保護の徹底と子どもの人権の尊重を図るようにしています。 |

総評

■特に良い点

ポイント1	子どもの主体性を考え、培う支援を行っています。
	<p>日常的な活動や、生活の中で常に職員は、子どもたちの声に耳を傾けています。それを活動に活かす工夫があります。例えば、児童館の良いところを聞いた動画では「自分らしさが出過ぎて困る児童館」という声が子どもからあるように自然体で活動が出来ているようです。これは困りごとを職員が解決するのではなく、子どもと共に解決する、また困りごとを声に出してよいというきっかけを職員がつくり、解決の方法へと導くことを意図的に行っているためです。</p> <p>大人がルールを調整するのではなく、子どもたち自身がどうしたらよいか自分たちで動くことも、活動の過程で行われるように支援しています。こうして子どもたちは主体的に実行してみる、うまくいかなかったても考えた過程を見守る職員との信頼関係の中で、自分たちのことを自分たちで考えていく力を培う機会を得ています。</p>
ポイント2	地域住民と共に、児童館を拠点とした子どもの育成環境づくりを行う関係があります。
	<p>「いつでもいける だれかに会える みんなとつながるじどうかん」をキャッチフレーズに、日常的に地域住民がクラブ活動の指導や、環境の整備などに楽しみながら関わっています。子育てを支えてくれた職員へ、自分の特技を児童館で活かすという形で活動への協力があります。児童館を拠点に地域住民も、何らかの関わりを行うことで子どもたちの育成環境が充実しています。職員と地域の信頼関係が築かれているからこそ、子どもたちも安心して児童館で遊ぶことが出来ています。</p> <p>1階の自治会館を利用できる連携や、近くの企業から外遊びの場所を自由に利用できるなど、コロナ禍でも子どもたちが、ゆったりと遊べる場を確保できており、日頃から職員が地域との関係づくりに尽力していることが感じられます。</p>
ポイント3	広報媒体が、利用者にとって楽しく、わかりやすく作成されています。
	<p>コロナ禍で利用者が微減である現状から、インターネットを活用したHPや児童館たよりの見やすさなどをさらなる工夫を心がけています。ルビをふる、写真を活用して活動状況を目で見てわかるようにする、行事等の「キャッチフレーズ」を大切に考えて作成し、ポスターや表示など、誰にもわかりやすく、見られるように作成するなど、広報媒体の充実を図っています。</p>

■改善が望まれる点

ポイント1	子どもや家庭の個別的な支援に関わる記録方法の検討が期待されます。
	<p>子どもの発達過程と、子ども一人ひとりの発達の個人差や状態を把握した支援に努めています。放課後児童クラブでは、前年の振り返りを行う中で各学年の特徴をつかみ、その上で当年度の学年ごとのねらいを設定し、それを目安として活動を計画して取り組んでいます。職員には子どもの発達に関する研修会などを積極的に受講する機会を設け、知識と支援内容の向上を図っています。個別の支援が必要となる気になる子どもや、配慮を要する子ども・家庭の支援は、毎日の昼会議において職員間で状況を情報共有し、必要に応じて会議の中でその対応について検討をしています。今後はこうした個別支援が必要な利用者について、継続的に記録をすることが可能な共通のフォーマットなどの方法を検討されても良いと思われます。これにより時系列で支援の経緯確認や、支援による子どもや家庭の変容がわかりやすく、職員間での事例検討や外部の連携団体・組織との情報共有が容易になり、支援の一助になることが期待できます。</p>
ポイント2	中高生世代による主体的な活動の充実を求めます。
	<p>中学生からの意見を受け利用時間を延長するといった子どもの声を活かした運営をしています。バスケットボールや卓球といった運動を楽しむ、図書利用や友人同士での来館、月1回の「中高生よっといDAY」の活動があり、児童館と職員を慕う中・高校生世代の姿が見られます。</p> <p>しかし、友人同士の待ち合わせや、決まった仲間との交流の場に留まる状況もあります。コロナ禍で「食のプログラム」が実施できず、女子の参加が少ないことも課題です。コロナ禍の状況で、限られた時間での知り合い同士の待ち合わせなど、中高生の気軽な居場所としての利用も大切な機会として、その利用者同士が交流できる機会の促進が求められます。常連グループの利用にとどまらない、安心していつでも何となく溜まれる居場所としての機能の活用の一工夫を期待します。</p> <p>中高生世代の発達段階に合わせたプログラム活動や、中高生世代が自分たちで発案した活動に積極的に新しいメンバーを呼び込むための工夫など、今利用している中高生世代と話し合い、コロナが落ち着いた後に活動展開がされることが期待されます。</p>